

令和 7 年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成 24 年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学 6 年生、中学 3 年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R 5 入学 現 3 年生	国語		数学		理科
	2 年時	3 年時	2 年時	3 年時	3 年時
	県	全国	県	全国	全国
	67.1	62.0	59.8	51.0	520
	(1.07)	(1.16)	(1.12)	(1.15)	
R 7 正答率の全国比		1.14		1.05	

◎2 年時は佐賀県学習状況調査、3 年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎「令和 7 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

◎「中学校理科」は、IRT（項目反応理論）に基づいて算出した IRT スコアを表示。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

○学習状況調査【3 教科共通】に読み取れる実態

- ・全国や県と比べると、平均正答率が高い。
- ・無回答率が、全国や県と比べると低い。
- ・単純な問題の答えを出すことは得意だが、会話の流れや文脈を捉えて問題の概要や要点を把握することが苦手な生徒が多い。

○学習状況調査【国語】から読み取れる実態

- ・学習指導の領域の知識及び技能の 3 つの事項は、佐賀県と全国の平均正答率を上回っている。
- ・学習指導の領域の思考力、判断力、表現力等の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことは、正答率が高く、佐賀県と全国の平均正答率を上回っている。

○学習状況調査【数学】から読み取れる実態

- ・学習指導の領域のすべての項目において、正答率が高く、佐賀県と全国の平均正答率を上回っている。
- ・問題形式では、短答式と記述式の正答率が高いが、選択式の正答率が低い傾向にある。

○学習状況調査【理科】から読み取れる実態

- ・CBT へ入力スキルが高い生徒が多い。
- ・正答率が高い単元は、電気、元素、密度、気体、消化。正答率が低い単元は、地層、呼吸、吸収。

○意識調査から読み取れる実態

- ・朝食を毎日とっているかや睡眠についての質問事項では、肯定的な回答の割合が高く、生徒は良好な生活リズムを身につけていることがうかがえる。
- ・授業でほぼ毎日タブレット端末などの ICT 機器を使って学習した生徒の割合が高く、自分の考えをまとめ、発表する場面で積極的に活用していることがうかがえる。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけない」と答えた生徒は 100%であった。
- ・人の役に立つ人間になりたいと考える生徒の割合が高い。
- ・新聞を毎日読んでいない生徒が多い。
- ・国語、数学、理科の勉強が好きな生徒の割合は高いが、授業で学習したことを今後の学習で活用しようとする生徒の割合は低い。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・各教科においてタブレット端末などのＩＣＴ機器を有効に活用し、他者とかかわる活動を仕組んだ「個別最適な学び」と「協働的な学び」につながる授業づくりを研究し、実践する。
- ・各教科の授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を増やす。
- ・各教科の学習内容が、日常生活の中でどのように生かされているのか、具体的な事象をもとに実習する機会を増やす。
- ・電子黒板にモデルやリード文を示し、書くことが苦手な生徒にも、取り組もうとする意欲や上手に書けたという成功体験をもたせる。
- ・定期テストや課題テスト等で記述式の問題を増やしたり、振り返りをタブレット端末で文章標記させたりして、文章を書く機会を増やす。
- ・学級活動や道徳の授業では、自己肯定感を高める教材を計画的に取り扱っていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・生徒会活動において、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する機会を増やす。
- ・ＩＣＴスキルの向上のためにタイピングの練習を取り入れ、学習規律の効果を高める。
- ・フォーサイト（ふりかえり力向上手帳）を活用して、計画的に家庭学習に取り組ませる。
- ・学習内容の定着に向けた朝の活動（北中クリエイトタイム）の実施
- ・北中クリエイトタイムの視写によって音読や黙読では届かない文章理解の道を開く。
- ・学級活動で話し合い活動や、レクリエーションの企画などを通して、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できる場を増やす。
- ・行事等の活動方法を工夫して、コミュニケーション能力を高める手立てをとる。
- ・学校生活全般の中で、生徒自身が自ら選択する自己決定の場面を意識的に設定する。
- ・生徒に図書室などで新聞閲覧をするように促す。